

# 文学座

協力  
bunko / ままや

作  
中島淳彦

演出  
鵜山仁

鬼頭典子

NORIKO KITO

塩田朋子

TOMOKO SHOTA

関輝雄

TERUO SEKI

山本郁子

IKUKO YAMAMOTO

栗田桃子

MOMOKO KURITA

角野卓造

TAKUZO KABONO

亀田佳明

YOSHIKI KAMEDA

太田志津香

OTA SHIZUKA

増岡裕子

YUKO MASUOKA





作 中島淳彦  
演出 鶴山仁

昭和4年11月28日、  
東京の世田谷区若林町に  
一人の女の子が生まれました。  
その子の名前は”くにこ”  
やがて、その女の子は  
物語の母になるのです。

この物語は、一人の女の子が、  
物語の母になるまでを描くものです。  
彼女が見つめていたものが、  
彼女に染み込み、  
いつの間にか彼女自身となり、  
言葉や物語として  
あふれ出していく…。  
おかしくてやがて哀しい、  
物語の母の物語。

鑑賞団体の皆様へ

今回の作品は女性の生き方に焦点を当てた「女性シリーズ」の第一弾！ トビキリ素敵な女優が皆様に”笑顔”と”元氣”をお届けします！ 現在でも多くのファンに支持される向田邦子さんの青春時代をモチーフに、だれもが通り過ぎた悩み多く冒険に満ちた時代を改めて振り返ることで、いまの自分が少し誇らしく思えるようになる作品です。運営担当サークルの皆様はじめ会員の皆様と共に、元氣がみなぎる心に残る例会を作つてゆきたいと思えます。どうぞご期待下さい！！

向田邦子

(1926~1981)



写真提供 文藝春秋

映画雑誌編集のかたわらラジオ、テレビの台本を書き始め、「寺内貫太郎一家」(TBS)、「阿修羅のごとく」「あ・うん」(以上NHK)など、絶妙なセリフ、巧みな構成で、「向田ドラマ」と呼ばれ記憶に残る数々の傑作を生み出した。エッセイ「父の詫び状」で作家としてもデビューし、「花の名前」「かわうそ」「犬小屋」では第83回直木賞を受賞。鋭い人間観察にもとづく描写の巧みさが今なお高い評価を得ている。

劇評から

向田の著作などを引きながら中島淳彦が書いたのは、邦子がもの書きとして歩きだすまでの物語。それは、戦争を挟んだ昭和の「家族」の話でもある。豊富なエピソードが次々と繰り出され、鶴山仁演出は笑いをちりばめながら、舞台を軽快に運ぶ。感じのいい、楽しい作品に仕上がった。

朝日新聞 山口宏子

装置 石井強司 照明 金英秀 音楽 川崎絵都夫  
音響効果 望月勲 衣裳 原まさみ 舞台監督 三上博  
演出補 所奏 制作 矢部修治  
宣伝美術 田辺智子 イラスト ホセ・フランキー

文学座ホームページ  
<http://www.bungakuza.com>

会場 = 旭川市民文化会館大ホール

本例会は青少年劇場例会です。

中学・高校生を無料ご招待します。テレビや映画とは全く違う、目の前で演じられる、演劇ならではの感動や迫力や感じてみてください。申込・詳細は旭川市民劇場(23-1655)まで。

会員募集中

角野卓造



関輝雄



亀田佳明



塩田朋子



山本郁子



栗田桃子



太田志津香



鬼頭典子



増岡裕子



第287回 旭川市民劇場 10月例会  
2015年  
10月28日(水) 6:30  
29日(木) 1:30